

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24720271

研究課題名(和文) 外国語学習におけるチャンク学習支援 学習コンテンツ、語学授業、留学準備指導の研究

研究課題名(英文) Encouraging EFL learners to memorize lexical sequences: a study on learning material, instructional designs, and teaching students planning to study abroad

研究代表者

松崎 武志 (Matsuzaki, Takeshi)

明治大学・政治経済学部・准教授

研究者番号：10582348

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000 円、(間接経費) 360,000 円

研究成果の概要(和文)：本研究は、目標言語の知識をレキシカル・チャンクとして記憶定着させるべくサンプル・ダイアログの大量暗記を強いるEFL大学授業の指導効果を調査するものである。スピーキングテストとアンケートの調査結果は、教室指導によりダイアログ暗記を促進することができ、学習題材の性質の違いも異なる学習成果に繋がり、そして、漠然と留学を意識している学生と比較して近未来に留学を控えた学習者はより積極的に言語タスクに従事することを示唆している。

研究成果の概要(英文)：This research investigates the effectiveness of specially constructed learning material and instructional designs employed in an EFL university course designed for students who are about to commence with a study abroad program or who are considering studying abroad in the future. Results of the questionnaires, speaking tests, and quasi-interviews administered to the students taking the course indicate that 1) memorization of model dialogs can be facilitated through instructional intervention, 2) different attributes of learning material may have differential learning effects, and 3) the imminence of the study abroad experience can be a determining factor in successfully motivating students to deal with the memorization task and other language tasks.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学、外国語教育

キーワード：教授法 カリキュラム論 lexical sequencing study abroad learning material EFL

1. 研究開始当初の背景

リアルタイムの言語使用を流暢かつ正確に行う上でチャンク記憶が極めて重要な役割を果たすことは、第二言語習得研究の世界でも広く認められている。研究者は、本研究の開始前、大学英語教員、英語プログラム監督者、そして短期海外留学プログラムのアテンド教員という教育現場の立場から、外国語学習における使用頻度の高いフレーズや会話パタンのチャンク学習のメカニズム、そして指導アプローチを研究していた。第二言語習得、外国語指導の研究者は、この数十年間、学習者をコミュニケーション・タスクに従事させながらコミュニケーション能力を伸ばすことを提唱してきているが、研究者は、果たしてどれだけの外国語環境の学習者がリアルタイムのコミュニケーション・タスクの中でチャンク記憶を身に付けることができるのか、疑問に感じていた。

研究者は、本研究の申請前に、大きく2つの角度からチャンク学習支援の研究を重ねてきていた。1つ目は、映画を用いたチャンク学習支援である。申請以前に2回、学会発表を行い、担当授業の一部においても、映画のチャンク学習への応用法を指導してきた。他方で、英会話サンプル教材のあるべき形、そして暗記学習を促す仕組み作りについても研究していた。前職では英語プログラム主任を任されていたので、英語教員と協力をして、模範英会話ダイアログの映像教材を作っていた。現職では、本研究前に、学内若手研究者向けの研究費を獲得し、この暗記用教材研究を進めるべく、実験活用可能な動画・音声の英会話ダイアログサンプル教材を制作していた。また、現職では短期留学プログラムへのアテンドも業務の一部であり、その準備科目も担当していることから、本研究申請前に、この教材を用い、アンケート調査を実施した。アンケート結果の分析により、チャンク学習用の題材のあり方、チャンク学習の促進方法について興味深い発見があったが、この研究を、より多くの被験者を対象として、そして、より科学的な方法で進めるべく、本研究の申請に至った。

2. 研究の目的

本研究では、研究者が明治大学から獲得した若手研究費で開発したサンプル英会話コンテンツを用い、研究者がアテンドを担当している同大学所属学部の夏期留学研修に参加する学生および前期に担当している留学直前準備科目の履修学生を主な被験者として、次の4点を検証することを目的とした。

(1) 授業でサンプル英会話の暗記を成績の一部とし、そして毎授業で暗記のチェックをすることが自律学習の程度に与える影響について。

(2) 近未来に留学を控えている学習者の学習モチベーションがサンプル英会話の自

律学習の程度に与える影響について。

(3) 留学最中の学習モチベーションがサンプル英会話の自律学習の程度に与える影響について。

(4) サンプル英会話としての学習題材の性質が学習者の自律学習に与える影響について。

3. 研究の方法

(1) 被験者

【平成24年度】前期に、研究者が特任教員として在籍をしている明治大学において、留学検討者向けの科目(科目名「留学準備講座」)の教室指導を行い、31名の被験者から、アンケート回答およびスピーキング・テストのデータを採取した。また、夏期には、当該大学が提供している約一ヶ月間のアメリカ東海岸研修の引率をし、参加者25名の学生からも、データを採取した(夏期研修グループからのスピーキング・テストのデータ回収は11名)。

【平成25年度】前期に、研究者が特任教員として在籍をしている明治大学において、留学検討者向けの科目(科目名「留学準備講座」)の教室指導を行い、27名の被験者から、アンケート回答およびスピーキング・テストのデータを採取した。夏期には、当該大学が提供している約一ヶ月間のアメリカ東海岸研修の引率をし、参加者11名の学生からも、データを採取した。

(2) 暗記学習対象

内容：事前に研究者が作成しておいた、留学先で役立つダイアログ集(計66個)

形式：長短半分ずつ用意 / それぞれの約半分を音声録音し、残り約半分は実演したものを録画 / 音声・映像はYouTubeにアップロード / スクリプト・和訳をまとめた冊子を各被験者に配付

ダイアログ形式に拘った理由：(1) ターンテイクングや相づち、対人コミュニケーションで顕著な発音、ジェスチャー、顔の表情は、モノログ形式ではうまく学習できないため / (2) 教室指導において、engagingなアウトプット・ペアワークをさせやすいので

(3) 授業での暗記促進

ダイアログ導入：毎週、平均6個のダイアログについて多角度から言語的説明を行った。

ダイアログ暗記作業：履修者は、原則、授業外で、ダイアログ集の冊子、YouTubeコンテンツ、講義内容を参考にしながら、導入済ダイアログをいくつか覚えてきた。

ダイアログ暗記チェック：毎授業の最低30分間、覚えて来たダイアログをパートナーと一緒に実演させ、それを別のクラスメート(あるいは研究者)に「チェック」(=合否判断)させた。

成績評価：30%をダイアログ暗記に割り

当てた

評価方法：「チェックシート」(=履修者別のチェック記録管理シート)を学期末に回収し、チェックの合格数に応じて成績評価を行った

(4)スピーキングテスト概要

研究1年目(平成24年度)のスピーキングテストの実施では改善点が諸々見つかった。次に挙げるスピーキングテスト概要は、研究2年目(平成25年度)に実施したものである(カッコ内に記してある題数については左の数値は指導開始時、右は終了時に実施したテストにおける出題数を表している)。

短文読上げタスク(10題・10題):ダイアログ集から抽出されたフレーズ・センテンスを、原文・応用文で読み上げる。

長文解答タスク【日本語】(4題・1題):指導開始時は、写真描写、要点レポート、意見、経験談を各1分で、指導終了時は、要点レポートのみ1分でスピーキング

短文翻訳タスク(16題・16題):ダイアログ集にあるフレーズ・センテンスが原文(8題)・応用文(8題)で答えとなりうるpromptに答える / 各8題のうち4題(計8題)は、指導開始時と指導終了時に同一問題を出題

長文解答タスク(4題・4題):写真描写、要点レポート、意見、経験談を各1分でスピーキング(レポートのpromptは、日本語解答タスクと同一のもの)

疑似インタビュー【日本語】(4題・4題):指導開始時は、暗記英語学習歴などを問うpromptに回答し、指導終了時は、学期中のダイアログ暗記学習振り返りなどのpromptに回答する

(5)アンケート概要

スピーキングテスト同様、研究1年目(平成24年度)のアンケート実施では改善点が諸々見つかった。次に挙げるアンケート概要は、研究2年目(平成25年度)に実施したものである。

設問はすべて、6件法で選択回答させた。

指導開始時(29問):英語学習法に関する信念・好み、および語学への向き不向きの自己評価を問うた。

指導終了時(45問):学期中のダイアログ暗記学習を通じて、英語学習法の信念・好みに変化が生じたかを問い、また、学習成果の振り返りもしてもらった。

(6)データ分析

チェックシート:暗記できたダイアログのパーセンテージを計測 / ダイアログごとに、暗記ができたか、そして、できたものについてはどのタイミングで暗記できたかを記録

アンケート:暗記学習態度、スピーキング力向上に関する項目回答の統計値を出す

短文読上げタスク:予め選んでおいた suprasegmental features (=リエゾン、破裂音、イントネーション、ストレス、トーン)について「可・不可」で採点

短文翻訳タスク:prompt提示から解答開始までのタイムを計測 / 解答の適切さを0~3点で採点 / ダイアログ集にあるフレーズの使用回数を計測(同一Qs、不同Qsに分けた集計も行う)

長文解答タスク: speech rate (=シラブル数)を計測

疑似インタビュー【日本語】:質的分析を行う

4. 研究成果

(1)語学授業がチャンク学習促進に果たしうる役割について:スピーキングテストの結果およびアンケート回答より、授業でサンプル英会話の暗記を成績の一部とし毎授業で暗記のチェックをすることによる暗記作業への従事を促す効果が見られたと解釈できる。この結果は、大学英語教育において多様なコースを学生に提供するにあたって示唆的である。

(2)留学に対する学習モチベーションがチャンク学習促進に果たしうる役割について:スピーキングテストの結果およびアンケート回答より、漠然と留学を意識している学生と比較して、近未来に留学をすることが決まっている学習者からは、より積極的な暗記作業への従事が見られた。この結果は、目的別の英語コースを学生に提供するにあたって示唆的と言える。

(3)学習題材そのものがチャンク学習促進に果たしうる役割について:スピーキングテストの結果およびアンケート回答より、まず、動画教材の使用は、音声のみの教材と比較して、より高い学習効果を引き出しうるが見られた。ただ、動画教材を活用することで音声とボディ・ランゲージの双方の学習が促進されることを予測していたが、実際には、前者に関して、より多くの学習が見られた。この2点の結果は、教材開発において示唆的と言える。最後に、ウェブ・ベースの視聴覚教材の活用については、被験者間で大きな違いが見られた。ウェブの活用については、教材開発側だけの問題ではなく、使用者(学習者)のコンピュータ・リテラシーの問題でもあり、今後、さらなる研究が求められるよう。

(4)今後の展望:この2年間の研究成果は、概ね、研究開始前の予測に近いものであった。しかし、暗記学習の対象となる教材、スピーキングテストの運営方法については、多くの改善点が見られた。また、より多くの被験者を対象として検証を重ねることも必要だと認識している。今年度(平成26年)すで

に新たな被験者グループを設定し、改良したデザインで研究を継続中であるが、次年度以降も研究を継続し、日本の大学英語教育の発展に寄与していきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

(単著・査読無) Preparing EFL learners for studying abroad: Possibilities for developing their oral communication skills through classroom instruction utilizing CALL materials. WorldCall2013 Conference Proceedings, 227-229. (著者: 松崎武志) 2013年

(単著・査読有) Preparing EFL students for studying abroad: The efficacy of model dialogs and instructional intervention. 明治大学教養論集(通巻493号、p. 105-p. 143)(著者: 松崎武志) 2013年

[学会発表](計2件)

【発表者】松崎武志 【発表標題】
Preparing EFL learners for studying abroad: Possibilities for developing their oral communication skills through classroom instruction utilizing CALL materials 【学会名】WorldCALL 【発表年月日】2013年7月12日 【発表場所】グラスゴー

【発表者】松崎武志 【発表標題】
Preparing EFL students for studying abroad: A study investigating the possibility for memorization of dialog samples and instructional intervention 【学会名】HICE 【発表年月日】2013年1月9日 【発表場所】ハワイ

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
松崎 武志 (MATSUZAKI, Takeshi)
研究者番号：10582348

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：